



絶滅危惧植物 クマガイソウ自生地の保全と活用 ～福島市水原地区の事例～

1 日本最大級のクマガイソウ自生地

福島市街地の南に位置する水原地区の里山の一面に、「水原のクマガイソウ群生地」があります。開花株数が約 5,000 本の、日本最大級の自生地と考えられています^{※1}。また、水原のクマガイソウは遺伝的多様性が高く、種子繁殖が行われてきたことも示唆され、自生地が良好に保全されていることが遺伝的にも明らかになっています^{※2}。

クマガイソウは、かつて里山で普通に見られた植物ですが、園芸用として非常に人気があり、盗掘などにより姿を消しました。これは、第1の危機（人間活動や開発による影響）により絶滅が危惧される植物の典型です。そのため、地元の水原の自然を守る会では、柵の設置や監視活動などの盗掘防止対策を継続的に行っています。

2 成功の鍵は里山の保全

さらにクマガイソウは、明るい林床を好む植物であるため、第1の危機だけではなく、第2の危機（人間活動の縮小による影響）にも大きな影響を受けました。里山の整備が行き届かず、実際に他県の自生地では絶滅の危機に瀕している事例もあります。

水原の自生地はスギ林の中にありますが、周囲のスギ林とは異なり、スギの生育が良くありません^{※3}。そのため、林の中が比較的明るく保たれ、クマガイソウが生育しやすい環境が残りました。水原地区では、この環境を維持するため、下草刈りや間伐や枝打ちを行っています。そのおかげで、ホウチャクソウやヤマシャクヤクなど、クマガイソウ以外にも豊かな里山の植物と一緒に保全されています^{※3}。

クマガイソウの花の時期には「クマガイソウの里まつり」が開かれ、この期間だけ一般公開されるクマガイソウを見ようと毎年首都圏からも多くの観光客が訪れます。地元が主体となった保全活動とともに、研究と専門知識が欠かせないこと、生物多様性の保全を地域おこしにつなげることができることなど、水原のクマガイソウ自生地の事例は、生物多様性をめぐる示唆に富んでいます。



木漏れ日の差す
水原のクマガイソウ自生地



自生地周辺の生育する里山の植物
ホウチャクソウ



絶滅危惧植物 ヤマシャクヤク

※1 山下由美・佐藤晃平・佐藤なつき・兼子伸吾. 2017. 日本における絶滅危惧植物クマガイソウ *Cypripedium japonicum* Thunb. (ラン科)の生育状況と葉緑体 DNA の遺伝的多様性. 分類 17: 159-166.

※2 Yamashita, Y., N. Satoh, T. Kurosawa and S. Kaneko. 2022. Genetic diversity and structure of the endangered lady's slipper orchid *Cypripedium japonicum* Thunb. (Orchidaceae) in Japan. *Population Ecology* 65: 54-63.

※3 黒沢高秀・清原一樹・山下由美. 2018. 福島市松川町水原クマガイソウ自生地周辺の植物相と保全に関する提言. *福島大学地域創造* 29(2): 125-145.